# 日本保健医療社会学会ニューズレター （No.126） 2024/1/16

目次

1. 第 50 回大会について
2. 第 50 回大会演題申込等のご案内
3. 第 50 周年記念シンポジウム
4. 第 3 回理事会報告
5. 定例研究会の報告・告知（関東）
6. 定例研究会の報告・告知（関西）
7. 看護・ケア研究部会報告・告知
8. 渉外・国際交流活動の告知
9.「保健医療社会学を学べる研究者」情報の募集
10. シンポジウム情報等のメール配信・学会ホームページ掲載希望について
11. 編集後記

---

## 1. 第 50 回大会について

第 50 回大会は、2024 年 5 月 25 日（土）～26 日（日）、千葉県西船橋駅最寄りの東京医療保健大学船橋キャンパスにて、対面で開催します。ただし、遠方や事情により Web なら可能という方にも参加機会を設けたいと考え、事前申込の方にのみ、会長講演・教育講演・シンポジウムならびに 50 周年記念公開シンポジウムの 4 企画については、リアルタイム Web 参加できるようにしました。

大会テーマは“『弱い』ままで生きられる社会のために”とし、会長講演と教育講演は、同テーマのもとサブタイトルを「ひとりの看護学・教育研究者として」と「ひとりの医療社会学研究者として」とし、当学会で出会ったふたりのメッセージがパラレルとなり、大会テーマをみなさまと深める契機になればと思っています。シンポジウムは、大会テーマが具現化されるケアに焦点をあて「ケアの主体を問い直す」としています。3 名の登壇者と 2 名の司会者で織りなされる問いと応答をともに考える場になればと思います。

そして、今回は、当学会の 50 周年を記念して、理事会による公開シンポジウム「薬害と保健医療社会学の 50 年」も開催されます。この企画は、一般市民にも無料で参加できるようにします。

一般演題（口演と示説）ならびにラウンド・テーブル・ディスカッションは、ともに、2024 年 1 月 19 日（金）23 時 59 分に受付終了としています。参加登録は、2 月初旬より開始します。詳細は、12 月に開設いたしました大会ホームページ（https://jshms-conference2024.jp）をご参照ください。

多くのみなさまのご参加を心よりお待ちしております。

（第 50 回大会長：吉田澄恵氏［東京医療保健大学千葉看護学部］）

## 2. 第 50 回大会演題申込等のご案内

第 50 回日本保健医療社会学会大会は、2024 年 5 月 25 日（土）・26 日（日）の両日、東京医療保健大学船橋キャンパスにて開催されます。「『弱い』ままで生きられる社会のために」を全体テーマとしています。

先日の会員一斉メールにてお知らせした通り、第 50 回大会の演題等の申込が開始となりましたので、申込期間を併せてお知らせいたします。多くの皆さまのお申し込み、およびご参加をお待ちしております。

一般演題申込期間：2023 年 12 月 4 日（月）～2024 年 1 月 19 日（金）23:59（受付厳守）

RTD 申込期間：2023 年 12 月 4 日（月）～2024 年 1 月 19 日（金）23:59（受付厳守）

演題等申し込みの詳細は以下の大会ホームページに記しておりますので、検討しておられる方々はこちらをご参照ください。 https://jshms-conference2024.jp/

会員の皆さまの積極的なご参加を心よりお待ちしています。

（三井理事：研究活動担当）

## 3. 第 50 周年記念シンポジウム

日本保健医療社会学会第 50 回大会（2024 年 5 月 25 日・26 日）で開催予定の 50 周年記念公開シンポジウムは**『薬害と保健医療社会学の 50 年』**と題して行う予定です。日時は大会 2 日の **5 月 26 日日曜日、午後 1 時半から 3 時半まで**の 2 時間を予定しています。企画趣旨は以下の通りです。ふるってご参加ください。

『薬害と保健医療社会学の 50 年』

日本における保健医療社会学の始まりの一つは、薬害スモンやそれと同時期の健康被害の調査研究である。『薬害と保健医療社会学の 50 年』と題する日本保健医療社会学会 50 周年記念シンポジウムでは、まずはじめに薬害研究と保健医療社会学との結びつきを紹介しつつ、医療社会学の観点から「薬害とはなにか」について確認する。薬害とは、医薬品による健康被害であるが、それは心身に対する医学的なものだけでなく、被害者の生活や人生に重大な影響を与える社会的困難の経験である。そこで、そのような薬害理解を基礎にして、シンポジストの皆さんには、それぞれに薬害経験が示す日本社会の問題について話をしていただく。なかでも、イレッサ薬害は裁判で認められなかった事件（制度的に認定されなかった薬害）であるが、これを保健医療社会学的に薬害に含めて考えていくという姿勢や課題について話し合う。したがってそこでは、「法的・行政的なこと」と「保健医療社会学的なこと」とは違うということが論点の一つになると考えられるだろう。それを通して、保健医療社会学の社会的意義とその来し方行く末について、議論し共有するのが本シンポジウムの目的である。

以上をもとにシンポジストとして以下の方々に登壇していただく予定です。なお、司会は東

北大学の田代志門理事と関西学院大学の佐藤が務めます。

シンポジスト
・花井十伍氏（薬害エイズ大阪原告団団長、全国薬害被害者団体連絡協議会世話人）
・近澤昭雄氏（イレッサ薬害遺族）
・小澤温氏（薬害スモン調査・薬害エイズ調査、筑波大学）

（佐藤理事：研究活動担当）

**4. 第 3 回理事会報告**

2023 年 12 月 11 日（月）に 2023 年度第 3 回理事会が開催されました。詳細は以下の通りです。

日時：2023 年 12 月 11 日（月） 16：00～19：00
会場：ZOOM 会議
出席者：金子会長、石川理事、田代理事、海老田理事、三井理事、松繁理事、佐藤理事、平野理事、井口理事、吉田大会長（第 50 回）、事務局 平野（記 国際文献社）
欠席者：美馬理事、朝倉監事、黒田監事

1） 第 50 回大会報告（第 50 回大会長、研活理事）

吉田第 50 回大会長より、チラシの配布と一般演題・RTD 募集について報告があった。参加登録システムについて検討した。三井理事より、研究活動委員 2 名増加の提案があり、承認された。大会プログラムの確定は研究活動委員会と大会校で行い、理事会で報告することが確認された。

2） 第 50 回大会理事会企画（佐藤理事）

佐藤理事より、50 周年記念シンポジウム案について報告があった。タイトルは「薬害と保健医療社会学の 50 年」とし、参加費無料の市民公開企画とすることとした。

3） ニューズレターの配信について（広報理事）

井口理事より、ニューズレターの目次案について説明があり、1 月中旬発行を目標に進めて行くこととなった。金子会長から会員向けのメール配信について研究助成公募を加えたいとの提案があり、承認された。

4） 第 51 回大会について（第 51 回大会長）

平野第 51 回大会長より 2025 年 5 月 17-18 日か 24-25 日の開催で、日本の高齢化・アジアの高齢化というテーマで検討していることが伝えられた。

5） 編集委員会報告（編集理事）

田代理事より資料の通り、論集の編集・刊行予定について報告があった。査読システムについて編集委員会で動作等を確認し、業務の効率化等の利便性があることから導入の提案があり、承認された。論集の即時オープンアクセス化については 3 月理事会で方向性を決定し、5 月総会にて承認を得る方向で進めていくこととなった。

6) 国際文献社への事務委託契約（編集含む）について（総務理事）

石川理事より、2024 年度の契約書案・覚書案について変更箇所の説明があり、継続が承認された。

7) 2023 年度 前期予算執行状況（総務理事）

石川理事より、前期予算執行状況について説明があった。収入について会費納入率が 77%であり、2 月に督促請求を行うこと、雑収入に 49 回大会の補助費返金と黒字寄付分が計上されていることが伝えられた。支出について論集のページ数増加により印刷製本費が予算超過予定であること、予算計上していなかったオンライン入会フォーム改修費用と HP 新規ページ作成費がそれぞれ事務局関連業務と HP 関連メンテナンスに計上されているとの報告があった。

8) 研究活動委員会報告（研活理事）

三井理事より、1 回目の関東定例研究会を 12 月 2 日に開催し、2 回目を 3 月に開催する予定であること、1 回目の関西定例研究会を 1 月に開催する予定であることが伝えられた。

9) 看護・ケア研究部会の報告（松繁理事）

松繁理事より、9 月 16 日に第 2 回定例研究会を開催し、3 回目を 12 月 17 日に開催する予定であるとの報告があった。

10) 渉外・国際交流活動の報告 （渉外国際理事）

平野理事より直近で開催された国際会議はなかったが、引き続き、国際学会へ参加した方へ参加報告を依頼することが伝えられた。

11) 園田賞選考委員会について（研活理事）

三井理事より今年度は佐藤理事が選考委員長となることが伝えられた。

12) 名誉会員推挙について（総務理事、会長）

名誉会員推挙について 70 歳以上で且つ、会長経験または理事、監事通算 10 年以上務めた会員はいないこと、もう 1 つの条件である学会への貢献が大きい等、特段の功績を挙げた会員についても現時点では該当なしと考えられることが伝えられた。後日、推挙に値する会員がいた場合には理事メーリングリストにて審議することとした。

13) 入退会者の承認について（総務理事）

石川理事より、入会者 17 名の承認依頼があり、全員承認された。

14) その他

金子会長より、第 53 回大会について美馬達哉会員を大会長とし、立命館大学で開催することが提案され、承認された。

医学教育と社会学教育のワーキンググループについて継続の希望があり、承認された。

（石川理事：総務担当）

## 5. 定例研究会の報告・告知（関東）

1) 関東定例研究会報告 2023年度第1回（報告）

日時：12月2日（土） 13:00～16:00

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス 大内山校舎6階 Y601教室

司会：松繁卓哉・三井さよ
報告者：田代志門（東北大学）
テーマ：「研究倫理における「文化の違い」を考えるために―日本社会学会の取り組みから―」
討論者：菅森朝子（立教大学）・細野知子（日本赤十字看護大学）

近年、研究倫理について医療系で制度化が進んできたが、それと同時に社会学系との温度差や発想の違いが際立つようになってきた。また逆に、医療系の研究者の内部から、研究倫理の過度の制度化が、自由な研究の発展を阻んでいたり、研究倫理を形骸化させたりしているのではないかという声もあがりつつある。

本学会は、設立当初から社会学系と医療系との学際的な交流の場となってきた。学際的な交流を意義あるものとしていくためには、両者の「文化の違い」を踏まえるとともに、それぞれから吸収すべきものを吸収し合うことが重要だろう。研究倫理についての議論はその重要な手がかりとなりうる。

今回の定例研究会では、研究倫理についての第一人者であり、医療系についても社会学系についても詳しい田代志門さんに、それぞれの「文化」の違いとその背景について解説していただいた上で、日本社会学会での倫理綱領の改訂についてもお話しいただいた。また、秘密調査とその可能性について、従来の捉え方が覆されつつあるハンフリーズの研究を事例に解説していただいた。

その上で、細野さんと菅森さんからは、ご自分の調査研究上の経験や感じている課題などについてお話しいただいた。細野さんは看護系の立場から、倫理審査にどれだけの労力が支払われているかということ、ただもちろんその仕組みに一定の意義も感じてきたこと、「匿名化」をめぐって生じる問題などについて話してくださると同時に、個人情報保護法との関係について質問が出された。菅森さんは社会学の立場から、調査して論文をまとめていく過程で感じている葛藤について、自分の立場性を悩んでいたが経験の継承という視点を調査協力者から貰ったこと、それでいてインタビューのすべてを論文に活用できないでいる葛藤など、話してくださった。

田代さんからは、個人情報保護法についてはアカデミックな調査研究を別枠とする立て付けになっていること、「匿名化」の多くは「仮名化」であり、社会的意義等との兼ね合いで考えていく問題であること、インタビュー等のデータの活用は学術論文に限られないという発想もあることなどの回答があった。

フロアからは、看護系の倫理審査についての問題提起がいくつか出された。田代さんによると、社会学の質的研究と看護学系とは、倫理審査についてのルールは両極端なくらい違うこと、ただしその多くはローカルルールの問題であることなどが指摘された。オンライン参加者からもチャットでコメントが出され、医療系の倫理審査に人文社会系がかかわることの意義が提起された。

対面での参加は15名、オンラインでの参加は34名。対面での参加者は終わった後も活発に

議論しており、活気のある会だった。他方、オンラインでの参加者がこれほど多いとは予想を超えており、またその多くが最初から最後まで視聴しておられ、関心の高さがうかがえた。ハイブリッド開催と名乗るほどの環境整備は今期研究活動委員には難しいが、今後も希望者にはオンラインで話を聴く機会を作るよう、細々と試みていきたい。

2） 関東定例研究会第2回告知
看護・ケア研究部会公開企画との共催
日時：2024年3月23日（土）14:00～17:00
場所：日本赤十字看護大学　大宮キャンパス　本館201講義室
　キャンパスマップ　https://www.redcross.ac.jp/access/
報告者：宮坂道夫（新潟大学）
タイトル：弱さを抱きしめて　～あなたと私の正義論～
討論者：西尾美里（梟文庫世話人）、櫛原克哉（東京通信大学）

今回は、第50回大会（2024年5月25日（土）～26日（日）、東京医療保健大学船橋キャンパス）との関連企画としたい。第50回大会のテーマは、「『弱い』ままで生きられる社会のために」である。

宮坂道夫さんは、2023年に『弱さの倫理学――不完全な存在である私たちについて』（医学書院）を出版された。本書で宮坂さんは、独自の視点から、人間存在を弱さの観点から捉えかえし、医療を含めた技術一般が持つ意味を位置づけなおした上で、現実に生じる医療上の問題や課題についても考察している。本研究会では、本書を中心として、その後見えたことも含めてお話を伺う予定である。

さらに、討論者は二人の方にお願いする。西尾美里さんは、精神科デイケアの経験から私設図書館『梟文庫』を運営し、地域の居場所づくりを進めてこられている。また、櫛原克哉さんは、メンタルクリニックという近年広がりを見せている場がどのように利用され、人びとを支えているかを社会学の観点から分析してこられた。お二人には討論者として、ご自身の経験や想いを話していただく予定である。

（三井理事：研究活動担当）

## 6. 定例研究会の報告・告知（関西）

関西定例研究会第１回は下記のようにハイブリッドで、医療社会学研究会、立命館大学生存学研究所との共催で行います。

「フーコーと精神医学と精神医学批判」
合評会　蓮澤優（2023）『フーコーと精神医学　精神医学批判の哲学的射程』青土社
共催：医療社会学研究会、立命館大学生存学研究所
日時2024年1月20日（土）15:00-18:00
場所立命館大学　朱雀キャンパス　１F多目的室

最寄り駅はJR、地下鉄「二条駅」です。
https://www.ritsumei.ac.jp/accessmap/suzaku/
<https://www.ritsumei.ac.jp/accessmap/suzaku/>

ハイブリッド方式で行います。現地参加される方は、資料準備の都合上、下記のグーグルフォームからご回答ください。
http://tiny.cc/8bsevz

Zoomアドレス
https://ritsumei-ac-jp.zoom.us/j/97955437118
ミーティングID: 979 5543 7118
パスワード無し

企画趣旨

ミシェル・フーコーは、人文社会系諸学において影響力のある思想家であるにとどまらない。精神医療・精神医学の分野で、学位請求論文をもとにした『狂気の歴史』（初版1961）によって、彼の名はタブー視（？）されつつも、消え去ることのない足跡を残した。

『フーコーと精神医学　精神医学批判の哲学的射程』は、哲学博士にして精神科医でもある蓮澤優さんが、『狂気の歴史』を読むことで経験した「困惑」と正面から格闘した成果である。フーコーの精神医学史――「歴史」かどうかの問題はあるが――に対して、哲学的・方法論的に綿密な読解を中心に据えて挑むことで、彼が精神医学の何をどのように批判したかを明らかにしようとした意欲作である。

この合評会では、著者による本書への簡単なイントロダクションに続いて、第２部「歴史記述を通じたフーコーの精神医学批判の意義」を中心に、イタリア精神医療の人類学で知られる松嶋健さん、医療社会学の美馬達哉がコメントし、フーコーの精神医学批判が目指したものについての議論を深めていく。

*プログラム*

14:30　開場
15:00　開会と趣旨説明
　　美馬達哉（立命館大学先端総合学術研究科、日本保健医療社会学会研究活動委員会）
15:10　「フーコー思想における“Psy”の問題系」 蓮澤優（九州大学）（30分）
15:40　「医療人類学からのコメント（仮題）」　松嶋健（広島大学）（30分）
16:10　「医療社会学とフーコー、そして精神医学批判」　美馬達哉（30分）
16:40　休憩（10分）
16:50　著者からのリプライ（20分）
17:10　総合討論

18:00　閉会
18:30～情報交換会（申し込み要）

（美馬理事：研究活動担当）

**7. 看護・ケア研究部会の報告・告知**

1）2023 年度第２回定例研究会報告

以下の内容で、第２回定例研究会を開催しました。

日時：　2023 年 9 月 16 日（土）14:00～17:00（オンライン開催）
発表者：　吉田澄恵氏（東京医療保健大学）
タイトル：　『弱い』まま生きられる社会とは？
概要：

50 回大会のメインテーマとした「『弱い』ままで生きられる社会のために」の大会長講演の準備段階のものとして、「『弱い』ままで生きられる社会とは？－思考の断片ー」と題し、まず、「弱い」まま生きる人とはどんな人なのかについて、よくみられる少数者、高齢者、子ども、女性／男性、被災者、犯罪被害者等々のカテゴリー化してしまわないで考えていることを示した。また、「弱い」まま＜生きる＞ということについて、いくつかの例を挙げ、他者から「弱い」と明らかにわかることもまた、＜生きる＞ための手段ともなっている場合があることを指摘し、一方で、社会現象の中で「弱い」ということが生まれているがゆえに、「弱い」ということは、＜生きる＞ことの困難を抱えている状況と捉えられるとした。そのうえで、「弱い」まま生きるために必要な「ケア・支援（看護・介護・介助・医療等々）」を担う側に求められる「弱さ」と「強さ」があるとし、「弱い」まま生きられる社会のために、看護学教育・研究者として考えていることと、社会学に期待していることを述べた。参加者からの論点提示があり、活発な意見交換を経て、現時点では、「弱い」ということが社会の変化の中で変容していることを明確に意識化したうえで、「弱い」まま生きられる社会をつくるために、目の前の『弱い』まま生きる人へのケアを続けられるような社会を一つひとつ構築していくことで、政策のような「社会的方策」として、ひとが、『弱い』まま生きられる社会を創造していくことにつなげていきたいと考えていることをクリアにすることができた。本日の論点を深め、大会長講演に備えていきたい。

2）2023 年度第３回定例研究会報告

以下の内容で第３回研究例会を開催しました。

日時：　2023 年 12 月 17 日（日）　14:00～17:00（オンライン開催）
発表者：　樋口佳耶氏（神戸市看護大学）
タイトル：　高度急性期病院の看護管理者が認識する医師から看護師へのタスク・シフトによる看護業務の変化
概要：本研究は、高度急性期病院において、医師から看護師へのタスク・シフトが進められる中で、看護業務がどのように変化したと看護管理者が認識しているかを明らかにすることを目

的として行なったものである。参加者の方からは、研究参加者の特徴がどれくらいデータに影響しているかという視点からの検討、本研究で明らかになったことと従来から指摘されている論点との相違点を明示する必要性など、数多くの貴重な指摘や助言をいただいた。今回発表の機会をいただいたことで、タスク・シフトを推進する政策が進められる背景、実際の現場でタスク・シフトが行なわれるプロセス、およびタスク・シフトがなされた結果、期待した効果が得られたのか否かといったことも踏まえ、研究を進めていく必要性が再確認できた。

（松繁理事：研究活動担当）

## 8. 渉外・国際交流活動の告知

本学会も加盟している人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences、略称 GEAHSS）から、公開シンポジウム「「なぜ日本のジェンダー指数は低いのか」＋「若手」・女性のためのテーマ別ディスカッション」のご案内がありました。 詳細はこちら。
https://geahssoffice.wixsite.com/geahss/single-post/news_20231229

日時：2024 年 2 月 18 日（日） 13：00～16：30
場所：ZOOM によるオンライン開催
参加無料（※お申込み締め切り 2 月 10 日）
プログラム、申込について詳しくは、こちらからご確認ください。
https://geahssoffice.wixsite.com/geahss/single-post/news_20231229

第一部 シンポジウム なぜ日本のジェンダー指数は低いのかー経済，法律，教育，政治の各分野から考えるー
司会：中谷文美（日本文化人類学会・岡山大学）
登壇者（発表 25 分、質疑応答 5 分）
経済学： 和田一哉（日本経済学会: 金沢大学）
法 学： 三成美保（ジェンダー法学会: 追手門学院大学）
政治学： 三浦まり（日本政治学会: 上智大学）
教育学： 小玉亮子（日本教育学会・日本教育社会学：お茶の水女子大学）
ディスカッション
文化人類学：コメント 加藤恵津子（国際基督教大学）

第二部 テーマ別 ディスカッション 当事者でなくとも、ご関心のある ROOM へ！
司会：椎野若菜
Room1 (司会: 嶺崎寛子/成蹊大学)「若手」をはじめとする研究補助業務職にまつわる問題
Room2（司会: 岩佐光広/高知大学)「社会人」院生／研究者にまつわる問題
Room3（司会: 椎野若菜/東京外国語大学）学生や PD の研究と子育ての両立にまつわる問題

（ほかの Room が立ち上がる可能性もあります）
まとめ 「若手」が望むギースの使い方（若手 WG 創設にむけて）

主催：人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 GEAHSS）
企画：日本文化人類学会(第 7 期幹事学協会）椎野若菜・嶺崎寛子・岩佐光広
協力：東京外国語大学男女共同参画部会、特定非営利活動法人 FENICS
後援（申請中）：内閣府男女共同参画局

（平野理事：国際・渉外担当）

## 9. 「保健医療社会学を学べる研究者」情報の募集

本学会では会員からの自主的な提供によるデータに基づき「保健医療社会学が学べる研究者」のリストを作成し、学会ホームページ上に掲載いたしております（https://square.umin.ac.jp/medsocio/list-reseacher.html）。 このリストに掲載をご希望の方は、上記ページにある「掲載情報」(Excel ファイル)にご記入の上、学会事務局までメールでお送りください。常勤であることや研究室を持っていることは、情報を掲載する条件ではないので、非常勤教員の方もどうぞ情報をお寄せください。 掲載内容は毎年度末に掲載継続・更新のご要望をお尋ねし、掲載継続の希望が示されたもの以外は年度末で削除します。なお、すでに掲載をされている方で、情報の変更や削除を希望される方は、事務局までお知らせください。

（井口理事：広報担当）

## 10. シンポジウム情報等のメール配信・学会ホームページ掲載希望について

会員や学会外部機関から事務局へお寄せいただく学会外部のシンポジウム等の情報につきましては、会員に関連する情報を選択してニューズレター配信メールやホームページにて記載させていただいております。ただし、メール配信やホームページ更新に対する委託料が発生するため、できる限りまとめて行う関係上、ご連絡が開催または申込締切まで 1 ヵ月を切る場合には配信・掲載が間に合わない場合があります。あしからずご了承ください。

（井口理事：広報担当）

## 11. 編集後記

ニューズレターNo.126 では、第 50 回大会の続報についてお届けしました。第 50 周年記念シンポジウムの内容の予告、自由報告・RTD 申込情報も掲載されています。情報はホームページにも順次反映してまいります。その他、1 月から 3 月に開催される定例研究会情報も掲載しておりますので積極的にご参加ください。日本保健医療社会学会ニューズレターは、No. 92 から PDF ファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ(https://square.umin.ac.jp/medsocio/)でも公開しています。

（井口理事：広報担当）

発行：日本保健医療社会学会　　編集：広報担当（井口高志）
学会事務局：　東京都新宿区山吹町 358-5　アカデミーセンター
jshms-office@as.bunken.co.jp　　TEL：03-6824-9375